

・ AALA ニュース 106 号 内容紹介

ウクライナ特集第 7 弾

編集部

AALA ニュース 106 号の内容を紹介します。今号はウクライナ特集第 7 弾として、9 本の記事が掲載されます。

マウロポリの動きが不可解です。ロシアはこれまでクリミアと東部について支配権を主張してきましたが、マウロポリを占拠する合法性はまったくありません。一方で、市民を盾にしたまま降伏しようとししないウクライナの対応も異常です。

総じて言えば「ロシア、断じて許すまじ」の主戦論が欧米・日本を席卷しているようです。

1. バチカン・ニュース「復活祭のローマ法王 Urbi et Orbi」

この間、ローマ法王が和平を呼びかけました。法王の呼びかけは明快で鮮烈です。平和は可能である。平和は義務である。平和はすべての人の第一の責任である！

それは煽られた主戦論とは一線を画し、グティレス国連事務総長の思いとも共通するようです。

2. グレイゾーン「ウクライナ政府とネオナチ」

ウクライナ軍の中でネオナチが幅を利かせているのは周知の事実ですが、その名に恥じず相当悪辣な行為を働いていることも、徐々に明らかになってきました。

彼らは SNS 等を通じて残虐ぶりを誇り、「成果」を吹聴しているようです。アメリカの著名な評論家マックス・ブリュメンソールがアンカーとなって、それらをレビューしています。閲覧にはご注意ください。

3. 英モーニングスター「今こそ非同盟と平和のために」

ウクライナ戦争を北の世界と南の世界という構図から見ていくと、まったく違ったものになる。そこに非同盟と平和という思想が浮かび上がってくる、鮮烈な印象を与える文章です。乱暴にならずに丹念に議論をしていくと、大きな方向が見えてきそうです。

4. ALAI「世界の周縁へ回帰するヨーロッパ」

ALAI は The Latin American Information Agency の略。国連の外郭団体で、日刊で情報を提供しています。

この論文は定期寄稿者のドス・サントスの筆になるもの。文明論を踏まえた重厚な論理構築は、読むものをうならせる力があります。

5. 大村哲「解説_ハイブリッド戦争」

会員による投稿です。オリジナルのスタイルをそのままにして掲載します。

6. ワシントン・ポスト「ウクライナと、勢力圏をめぐる米国の偽善」

ブリンケン国務長官はロシアのウクライナ侵攻が勢力圏構想に基づくと批判するが、アメリカも西半球を死活的勢力圏としているのではないか、というものの。

ワシントン・ポストの記事というのが面白い。

7. テレスール「ウクライナ紛争とアフリカ経済」

「アフリカの角」地帯では、すでにウクライナ紛争の影響で食料不足が出現している。それは小麦輸入の減少もあるが、むしろ肥料供給大国であるロシアからの供給不足の影響が深刻だというもの。

この肥料不足問題は米国の農家にも影響しているようです。

8. 野本久夫「筒井清輝著_人権と国家」(岩波新書)紹介

会員の投稿です。最近出版された「人権と国家」という本の紹介です。

9. 鈴木頌_原発と「緑の免罪符」とオーストリア

COP26 のあと、CO₂ 基準をクリアするためには原発が不可欠だという議論が EU 内に広がっています。この動向を解説したものです。

少し古くなってしまいましたが、基礎知識として提供しておきます。